

小学校 音楽科 部会

部会長名 添田町立真木小学校 校長 太田 優子

実践者名 川崎町立川崎小学校 教諭 小西 美音良

1 研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせながら、音や音楽を楽しむ音楽科学習
～「分からない」「できない」などの困難を児童が主体的に乗り越える教育活動の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 音楽教育の動向から

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)音楽科の教科の目標には、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指していることが示されている。子どもが音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、多様な音楽活動を幅広く体験することが大切である。そんな音楽的な体験の中で、子どもが思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりし、自分が理解したり考えたりしたこと、音楽を豊かに表現したこと、友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流し共有したり共感したりすることこそ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することに大きく関係すると考える。そのため児童が主体的に教育活動を行えるような教師の手立てや、授業の在り方などを追求することとする。これは、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現を高め合う子どもを育てる上で大変意義深いものである。

(2) 児童の実態から

本学級の児童は、友達と声を合わせて楽しく歌ったり、リズムにのって体を動かしたりすることが好きである。しかし、範唱やまわりの声を聴かずにむやみに元気よく歌ったり、自分勝手なスピードで歌ったりする児童もおり、拍の流れにのりながら、曲の感じをとらえて表現するまでには至っていない。また、何人かは自分に合った表現方法を選ぶのが苦手な児童もいる。歌唱の活動を通して正しい音程やリズムなどに対する感覚を身に付けるようにするとともに、伴奏をよく聞いて歌う活動を通して、調和のとれた歌唱表現をするための素地を養っていくことが重要である。そのために、拍打ちやリズム打ちなどで体を動かしながら、曲の感じを感じ取る活動を十分行い、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、みんなで合わせて楽しく演奏する主体的な児童の姿を引き出したいと考えた。

3 主題・副主題の意味

(1) 「音楽的な見方・考え方」とは

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素(音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえなど)とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けることである。

(2) 「音楽的な見方・考え方を働かせる」とは

音楽科の学習を通して、子どもが音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働き

が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることを支えとして、自ら音や音楽を捉えていくとき、音楽的感受性が豊かになり、捉えたことと自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて考えることである。

(3) 「音や音楽を楽しむ」とは

子どもが主体的に音や音楽に関わり、学習する喜びをもつことである。表現や鑑賞の活動の中で、友達と気持ちを合わせて音楽表現をしたり、いろいろな聴き方や感じ取り方に接したりする経験を通して、主体的に思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることが、音や音楽を楽しむ姿である。

(4) 「分からない」「できない」などの困難を児童が主体的に乗り越える教育活動の工夫とは

音楽の授業においても「安心・安全な風土」を醸成し、児童を「社会的自立」に向かわせるためには「分かっている」児童を軸にした授業づくりから脱却する必要がある。「分かる人？」と声をかけ「分かっている」児童を軸に学習を展開することが「分からない」「できない」と感じている児童の自己肯定感を低下させたり不安を大きくしたりすることになりかねない。そのため、むしろ授業者は「分からない」「できない」ことに共感したり「分からないことを分かっている」こと(メタ認知)を価値付けたりすることが重要である。この授業者のマインドが「分からなくても大丈夫」「分からなくても先生や友達と一緒に考えてくれる」「分からないことが分かっていることも素敵なこと」という児童の意識改革を促し、その結果、学級の「安心・安全な風土」の醸成につながる。また「分からない」という困難な状況をペアやグループ、学級全体で解決していく過程でこそ、児童が「社会的自立」に向かう姿が期待できる。以上のことから、教育活動の工夫とは、児童の「分からない」「できない」など困難の状況を意図的に仕組み、既習と児童をつないだり、児童相互をつないだりする教師の働きかけにより困難を克服させることである。

4 研究の目標

音楽科指導において、音楽的な見方・考え方を働かせながら音や音楽を楽しむ子どもを育てるために「分からない」「できない」などの困難を児童が主体的に乗り越える教育活動の在り方を究明する。

5 研究仮説

「分からない」「できない」などの困難を乗り越えることができるように3つのつなぐ(自己とつなぐ、他者とつなぐ、教材とつなぐ)を働きかければ、音楽的な見方・考え方を働かせながら、音や音楽を楽しむことができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

題材	うたでまねっこ 教材曲「もりのくまさん」 「フルーツケーキ」	総時数	4時間	時期	10月
題材の目標	<p>○思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり、拍に合わせてリズム表現をしたりする技能を身に付けることができる。 (知識及び技能)</p> <p>○フレーズや呼びかけとこたえなどを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととのかわりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。 (思考力、判断力、表現力)</p> <p>○聴き合って歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 (学びに向かう力、人間性)</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点	
1	1 ・ 2	曲想と呼びかけやこたえなどとの関わりに気付くとともに、聴き合って歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しむ。	「もりのくまさん」を歌い、いろいろな強さを試しながら交互唱(呼びかけとこたえ)する。	交互唱の楽しさを理解させるために、いろいろな歌い方(よびかけっこ)を工夫する。	
			「もりのくまさん」を足踏みしたり体を動かしたりしながら歌う。	音色や強弱を変化させながらリズムを打てるようにするために、打つ位置や強さを変えて範奏する。	
2	3 ・ 4 本時	声を合わせて歌ったり、拍に合わせてリズム表現したりする技能を身に付けるとともに、交互唱の面白さを感じ取りながら表現を工夫する。	「フルーツケーキ」を拍の流れに合わせて歌う。	3拍子の流れを感じるようにするために、タブレットのメトロノームアプリを使う。	
			3拍子に、好きなフルーツの名前を当てはめる。	「たんたんたん」のリズムへの当てはめ方に困難を感じている児童が困難を乗り越えることができるように、必要に応じて「つなぐ」働きかけを行う。	

7 指導の実際

(1) 主眼

声を合わせて歌ったり、拍に合わせて手を叩いたりする活動を通して、自分の選んだフルーツを3拍子の流れに合わせて歌うことができる。

(2) 展開

学習の主な流れ	○指導上の留意点 ◇評価規準	
<p>1 前時までの学習を振り返り、おとのスケッチ〈たん と たたの リズムであそぼう〉を想起して全体共有し、本時の学習のめあてを確認する。</p>	<p>○ 児童が本時の学びの見通しをもつことができるように、前時の学びの質的・量的違いを生かし、前時までに行ったリズム打ちについて学級全体に共有する。</p>	
<p>めあて「たんたんたん」の リズムに あわせて じぶんの フルーツケーキを うたおう。</p>		
<p>2 本時の学習計画を見直して決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  「たんたんたん」のリズムに合うフルーツは何があるかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  「ブルーベリー」はどうやって当てはめたらいいのかな。 </div> <p>3 課題を追究する。 (1) 3拍子の拍の流れにあうフルーツを決め、当てはめて歌う。</p>	<p>○ 前時の学びをもとに学習計画(リズムに当てはめるフルーツの名前、方法ABC)を調整して主体的に活動することができるように、フルーツをいくつか選べる場を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A じぶんで チャレンジコーナー B おともだちと チャレンジコーナー C もっとチャレンジコーナー</p> </div> <p>【自己決定の場(内容・方法ABC)の設定】</p> <p>○ 「たんたんたん」のリズムへの当てはめ方に困難を感じている児童が困難を乗り越えることができるように、必要に応じて「つなぐ」働きかけを行う。</p> <p>【自己とつなぐ、他者とつなぐ、教材とつなぐ】</p> <p>◇ 自分の選んだのせるものを3拍子の流れに合わせて歌うことができる。(知識・技能)</p>	
<p>【Aの児童】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  3文字のフルーツならたんたんたんのリズムに合わせてやすいのにな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  タブレットを使ってリズムに合うように練習してみよう。 </div>	<p>【Bの児童】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  ももはたんたんたんのリズムにどうやってのせた？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  わたしは「うん、もも」ってしたらうまくいったよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  ぼくは「もも、うん」ってしたけど、それもいいね。一緒に歌ってみようよ。 </div>	<p>【Cの児童】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  全部できたから他のフルーツもしてみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  パイナップルはどうしたらたんたんたんのリズムにのれるかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  「パイ、ナッ、プル」だとうまくいくよ。 </div>
<p>(2) 友達の当てはめたフルーツを模倣して歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  同じフルーツでも違う言い方があったね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  まねっこして歌うの楽しいな。もっといろいろなフルーツで歌いたいな。 </div> <p>4 本時学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  6文字のフルーツもたんたんたんのリズムにのせることができたよ。 </div>	<p>○ 本時の学び方のよさや課題に気付くことができるように、3つの視点で振り返る場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に困難はあったか、乗り越えたか ・困難をどのような学び方で乗り越えたか ・次の時間にいかしたいことは何か 	

8 研究のまとめ

(着眼1) 自己決定の場(内容・方法ABC)の設定

① 手立て

前時の学びをもとに学習計画(リズムに当てはめるフルーツの名前、方法ABC)を調整して主体的に活動することができるように、児童に16種類のフルーツから1つ選ばせ、自分がA(じぶんでチャレンジコーナー)B(おともだちとチャレンジコーナー)C(もっとチャレンジコーナー)のどのコーナーだったらできそうか考えさせる場を設定した。【資料1】【資料2】【資料3】

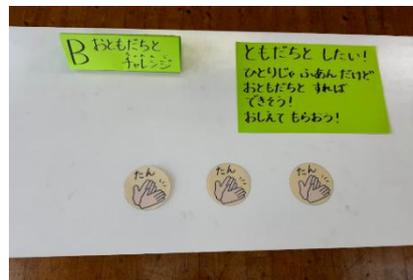
【資料4】



【資料1】



【資料2】



【資料3】



【資料4】

② 実際

あらかじめフルーツを示し、児童自身にどのコーナーに行きたいかを決めさせることで、スムーズに活動に入ることができた。2文字のフルーツを選ぶ児童がおらず、3文字以上のフルーツを選ぶ児童が数名しかいなかった。活動に入ると、B(おともだちとチャレンジコーナー)を選ぶ児童が圧倒的に多く、同じフルーツを選んだ児童同士で練習する姿が見られた。

(着眼2) 自己とつなぐ、他者とつなぐ、教材とつなぐ

① 手立て

「たんたんたん」のリズムの当てはめ方に困難を感じている児童が困難を乗り越えることができるように、必要に応じて3つの「つなぐ」働きかけを行った。

② 実際

【自分とつなぐ(自己内対話を促す)ための働きかけ】

授業導入で「たん、たた、うん」のリズム遊びをしたことを想起させたことで、リズム遊びから本時のめあてへとつなぐことができた。

【他者をつなぐ(他者との対話を促す)ための働きかけ】

自分の選んだフルーツを「たんたんたん」に当てはめることにつまずいている児童に「○○さんのフルーツをまねしてみよう。」と声をかけた。すると、同じフルーツを選んだ児童同士で教え合いながら練習している姿が見られた。

【教材とつなぐ(教材との対話を促す)ための働きかけ】

授業の終末で、選んだフルーツをみんなでまねっこして歌い、歌えたら黒板のケーキにフルーツをのせていくという活動を設けた。自分の選んだフルーツをみんなにまねしてうたってもらうことで達成感を味わえたようで嬉しそうだった。また、ケーキにフルーツがのっていきにつれて、様々なフルーツを3拍子のリズムに乗せて楽しんで活動する姿が見られた。【資料5】



【資料5】

9 成果と今後の課題

- 音楽的な見方・考え方を働かせるためにリズム打ちをさせたり、交互唱させたりしたことで、拍の流れを捉えやすくなり、友達と一緒に表現する楽しさを味わうことができた。
- 「わからない」「できない」をどの方法だったら解決できそうか自分で選ぶことで、主体的に活動することができたので、有効であった。
- 解決方法を選択することはできていたが、自分の困難に適切な方法だったかまでには至っていなかった。自分に合った方法の選択の視点を明確にすることが必要である。

◎ 参考文献

- 文部科学省 小学校学習指導要領解説書 音楽編